

富谷市記者会見資料⑥
平成31年1月30日
経済産業部 産業観光課
担 当：今野・佐々木
連絡先：358-0524

「よみがえれ！とみや茶復活プロジェクト」

再生技術協力締結式の開催について

江戸時代より奥州街道の宿場町・しんまち地区で生産が盛んだった「とみや茶」は、奥道中歌に「富谷茶のんで味は吉岡・・・」と街道宿場歌として詠まれたほどでした。しかし昭和45年頃に全て廃業とり、現在では地域に原木が少し残っている状態です。

このたび、2020年に富谷宿開宿400年を迎えるにあたり、世代を超えて伝えていきたい歴史文化として、「とみや茶」を復活させるプロジェクトを昨年より取り組んでいます。

このような中、日本製紙(株)グループの日本紙通商(株)様の技術協力をいただき、「とみや茶」の原木を日本製紙(株)の容器内挿し木技術を用いて再生し、本当の意味での「とみや茶」復活を行うことになり、この度、日本紙通商(株)様と富谷市とで再生技術協力の締結式を執り行うことになりました。

今後は、「とみや茶」の復活を契機に、新たな6次化産業として「とみや茶」を利用した飲料水やスイーツの原料として利用できるような取り組みを行い、開宿400年事業の一環としても実施してまいります。

報道機関の皆様におかれましては、ぜひ、取材していただきますようお願いいたします。

記

1. 日 時 平成31年2月20日(水) 午後2時
2. 場 所 富谷市役所 3階会議室
3. 内 容 別紙のとおりです
※詳細確定後に改めてプレスリリースいたします。

「容器内挿し木技術」とは・・・

日本製紙(株)が開発した植物の光合成能力を最大限に引き出す独自の技術です。
発根が難しかった植物でも苗木の生産ができます。

【別紙】

1. 事業名 「よみがえれ！とみや茶復活プロジェクト」再生技術協力締結式 記者発表
2. 日時 平成31年2月20日（水） 午後2時～午後2時30分
3. 会場 富谷市役所 3階305会議室
4. 内容 富谷茶の復活プロジェクトに関して、日本製紙㈱グループ・日本紙通商㈱様の
アグリ技術のご協力をいただき、富谷茶原木から、富谷茶苗木1,000本の再生に
取り組んでいくため富谷市と協力していくことを発表するものです。

【出席者】 ・日本紙通商㈱ ※東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
代表取締役社長 佐藤信一 氏 ※他関係者

・富谷市

富谷市長 若生裕俊

富谷市副市長 高橋義広 ※他関係職員

【次第】 ・挨拶 富谷市長
日本紙通商㈱社長 ※挨拶及び協力概要説明

・協定締結

・質疑応答

・記念撮影

【日本紙通商㈱について】 ※日本製紙㈱グループ・大株主

紙・パルプ業界を担う専門商社として、洋紙・情報用紙の分野においては、
日本製紙グループの中核代理店として、国内外の市場に、大きな役割を担っ
ています。また、洋紙以外の分野は広く、古紙・パルプ、包装資材の板紙・フ
ィルム、機能材料としてのフィルム、壁紙・紙容器用原紙、化成品、生活産業
資材、工業薬品、製紙関連機械、建材、家庭紙、ヘルスケア、アグリ製品、等
多様な商品を提供し、需要家のみなさんから高い信頼を頂いている企業です。
近年、持続可能な社会の実現に向けて、常に環境に配慮した企業活動をさら
に推進し、日本製紙グループのミッションである『豊かなくらしと文化の発
展』への貢献の実現として、バイオ再生技術を活用した桜の復活や森林育成
などの地域貢献事業へも積極的に取り組んでいます。

5. 予 定 今後のスケジュール

H30. 6 富谷茶原木採取 日本紙通商(株) ※クローン再生実証実験

H30. 12 日本紙通商(株) 富谷茶原木より 100 株の再生成功

H31. 2 日本紙通商(株)様と協力締結

H31. 4 富谷茶原木再生 1,000 苗育成
・クローン技術

H32. 6 富谷茶苗 1,000 株生産

H32. 7 富谷宿開宿 400 年記念事業
とみや茶復活プロジェクト「植樹式」
・場所 しんまち清水沢地内（脇本陣 気仙屋 所有地予定）

H32. 8 今後は・・・
※とみや茶育成へ栽培拡大
※富谷茶ブランドとして新商品開発、提供

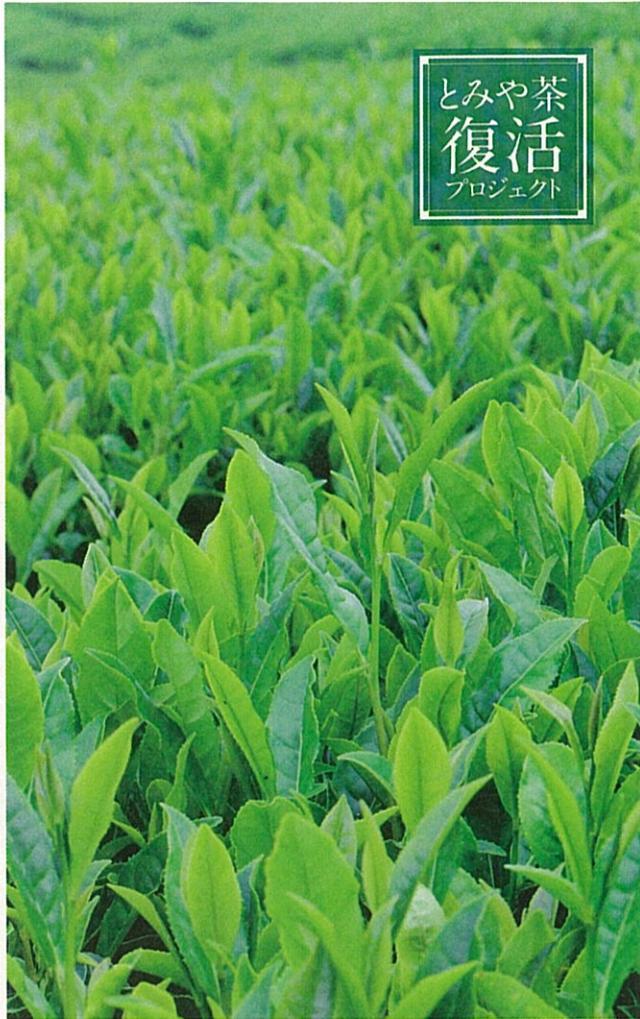


6. 問合せ 富谷市経済産業部 部長 022-358-3195

※「容器内挿し木技術」とは

日本製紙(株)が開発した植物の光合成能力を最大限に引き出す独自の技術です。
発根が難しかった植物でも苗木の生産ができます。

茶
復活
プロジェクト
とみや



国分の町よりここへ

七北田よ

富谷茶のんで

味は吉岡

〔歌意〕 仙台市の国分から泉市の七北田で富谷町の

お茶を飲んで味は良い(よしおが吉岡に掛けた)

とみや茶『復活』プロジェクト

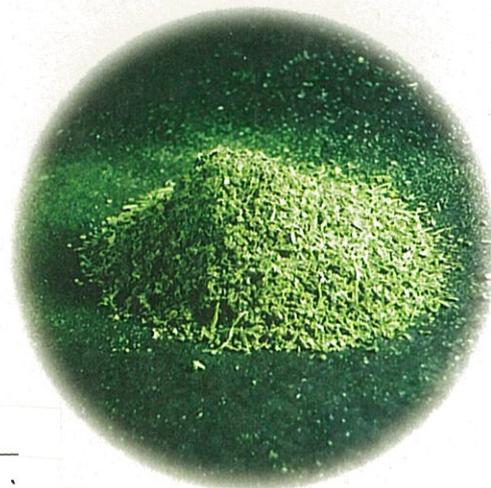
地域活性化と会員就業創出を
目指して!

「富谷茶飲んで味は吉岡」と奥州道中歌
でうたわれたように、昔富谷茶は富谷で
さかんに栽培され、飲まれていました。

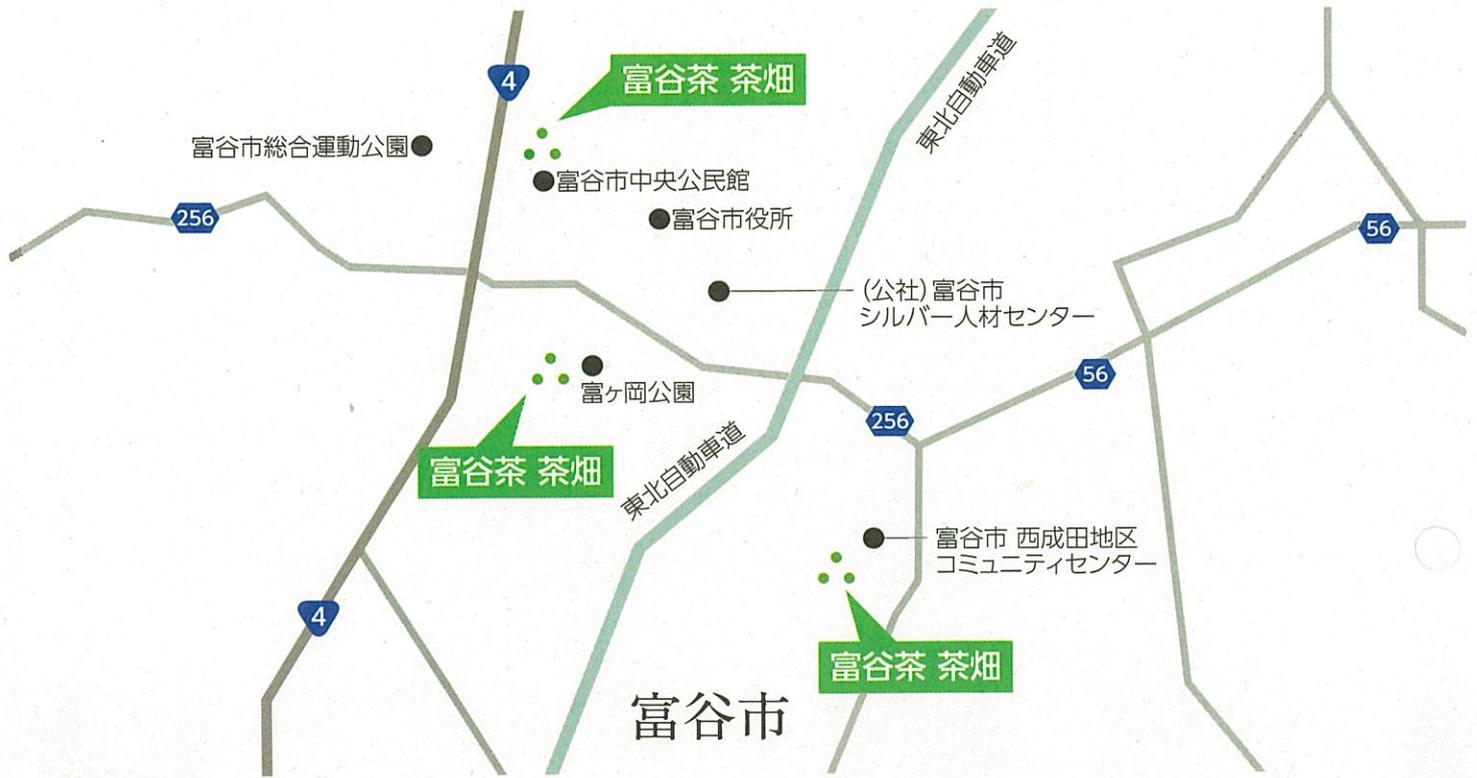
その富谷茶を復活させ、地域活性化と当
センター会員就業創出を目指し、国の「地
域就業機会創出・拡大事業」を利用して、
当センターの新しい事業がスタートしました。
2020年富谷宿開宿400年にむけ、
お茶を通して富谷の魅力を全国に発信
していきます。

◆ 実施内容

- 茶畑整備・栽培・収穫●
- しんまち通り観光案内(茶畑案内)●
- お茶の販売・お茶スイーツ開発●



- 富谷市民の方には、茶摘み体験・製茶体験・お茶の試飲等の実施を予定しております。
- この事業は、くろかわ商工会富谷事業所、富谷市のご協力のもと実施しております。



富谷茶の歴史

江戸時代から富谷は茶の産地であった。「奥道中歌」に「国分の町よりこへ七北田よ富谷茶のんで味は吉岡」とうたわれたように、奥州街道を往来する旅人が縁台にすわり富谷茶を飲んでいた。富谷とお茶のかかわりは、元文2年(1737)に内ヶ崎家の5代目新三郎が藩主にお茶を献上したとある。また寛永4年(1751)に渡辺源内が藩主から製茶を命じられて、茶を差し上げたとの記録も残っている。

当時の製茶は品質もよく、京都まで出荷されたといえられている。

大正の末期頃までは30軒ほど茶を作る農家があったが、次第に全国の茶どころに押され、ただ一軒、自家用(旅館)として製茶していた気仙屋でも、昭和45年頃に茶の栽培をやめてしまった。現在は当時の名残として、昔栽培されていた茶畑、市内の公共施設の一角、民家の庭先に茶畑が点在しているにじまる。



● 茶畑(昭和40年代初期)

当センターとしては2020年富谷宿開宿400年にあわせ、富谷茶を復活させ、富谷茶を通して富谷の魅力を全国に発信していきます。